Liebenzell Mission International of Japan

VOICE

NO. 127

LMI世界宣教会
LM-Japan
振替 00110-1-91993

発 行 日 2022年７月15日
発 行 人　田辺　証夫
編 集 人　小堀　日出春

LMI世界宣教会はリーベンゼラ・ミッション・インターナショナル（LMI）に加盟している日本の宣教団体です。

New York Report

ニューヨーク周辺邦人宣教・宣教師
笹川雅弘・由利子

４月と５月に祝福のバプテスマ

昨年の子どもクリスマス会に初めて教会に来られたSTさんが年明けから受洗準備を始め、4月17日のイースターに受洗の恵みにあずかりました。小さなお子様二人の育児に追われつつの準備でしたが主が恵みによって確かな信仰を与えてくださいました。また、イースター礼拝に初めて教会に来られたRKさんがその週から急ピッチで受洗準備の学びを進められ、5月29日のバプテスマ（滴礼）へと導かれました。

㊧イースターに受洗したSTさん ㊨滴礼で受洗するRKさん

初夏のゴスペルコンサート

昨年に続いてGregory Kellyさんの指導のもと、4月7日（木）から6月9日（木）まで計10回のワークショップに参加した方の出演するコンサートが、6月11日（土）に行われました。大人27名、子ども22名がステージで歌声を響かせ、Zoom参加を含めると計二百数十人の入場者とともに感動のときを分かち合いました。今回を最後に帰国されるご家族が三組ほどおられます。帰国後もNYでゴスペルを体験したOBによる同窓会が持たれており、多くの仲間とともに引き続き教会へつながってほしいと願っています。

連絡先：LMJ世界宣教会　熊久保公義
電話：045-931-3312
Mail: kimikuma1126@gmail.com
HP:https://nymissionsasakawa.wixsite.com/support

祝福されたコンサート終了後の全体写真(6/11)

夏の一日子どもデイキャンプ

昨年に続き今年は8月24日（水）に教会で子ども一日デイキャンプを行う予定で準備を進めています。

求道者の動向

5月29日に受洗されたRKさんのご両親も礼拝後に聖書の学びを続けていましたが、このたび、お父さまのSKさんが受洗決心へと導かれ、7月10日（日）にバプテスマを受けることになりました。RKさんのお母様も引き続き求道中です。ご家族全員が救われることを祈っています。

教会員の動き

3月に2名の教会員が帰国いたしましたが、NYめぐみ教会で受洗された方の日本での奉仕教会がこのたび決定し、転籍の手続きを行いました。熱心に主日礼拝と祈り会に参加しており感謝です。

【祈りの課題】

- ■コロナ禍の中で行われる宣教活動が守られ豊かな実を結ぶように。
- ■７月10日に受洗したSKさんと奥様のMKさんの救いのために。
- ■帰国した教会員が日本でも素晴らしい働きを継続することができるように。
- ■宣教師夫妻の健康が守られ、インフレと円安が加速する中、経済的必要が満たされるように。

小さな Voice

熊久保 公義
LMI世界宣教会副理事長

「世界の見方を変えられて」

イエスが72人の弟子たちを各地に遣わされた場面(ルカ10章1節)には、宣教の働きに仕える者たちへの心構えが多く語られています。その際、最初に語られたのは「収穫は多いが、働き手が少ない。だから・・・祈りなさい。」(同10章2節)との言葉でした。これは他の場面でも、イエスが人々をご覧になった時に心を痛めながら発する言葉の一つで、イエスの地への見方が表わされているものです。主の目には、地はすでに色付いて刈り入れを待つばかりの状態に映っているのです。弟子たちに心構えを教える文脈で、このことがまず語られたことの意味を考えさせられます。どう伝えようか、どのように語ろうかと考えあぐむよりも先に、主と同じように地を見ているだろうかと問われるのです。

「未信のあの人に福音を語るのは先でも良い」、「この友人は他のもので満足しているから収穫は無さそうだ」、と現状の認識の仕方が甘いということは無いでしょうか。本当は語れば変わる人がいるのであり、今イエスを知らなければ絶望の中に沈んでしまう方々が多いのです。

主の見方を私たちの見方とするとき、もはやうまく語れないとの恐れやまだ先でも良いとの悠長な考え方から解放されて、切実な思いで主に祈るようになることでしょう。そのような見方で、私たちも世界宣教の働きに携わらせていただきたいと願います。

(かもい聖書教会牧師)

近藤宣教師が「日本周産期・新生児医学会」で講演

近藤恵医療宣教師が7月11日、横浜市のパシフィコ横浜で行われた日本周産期・新生児医学会で、バングラデシュの医療状況について講演しました。以下は講演概要です。

もともとは一般外科医であり、産科医でも小児科医でもない専門外の私が垣間見た、バングラデシュの周産期医療の状況を報告します。

まずは、現在のこの病院の状況をお話しします。陣痛が来て初めて病院に来る人から、定期的に検診に来ていた人まで毎日平均7人は飛び込んでくる産婦さんに、助産師は果敢に対応しています。分娩もほとんど助産師で対応しています。帝王切開になるのは、この病院では6割くらい。病院にいる産科医は一人だけなので、8割は非産科医がやります。助手は看護師や助産師、看護学生です。新生児のケアは看護学生の役目です。

次ぎに、専門外の私がこの病院でどのように周産期医療に関わってきたのかをお話しします。最初は、教えられた通りに帝王切開をするだけで精一杯でした。日本に一時帰国した際、半日の新生児蘇生法の講習会に参加し、バングラデシュに戻り、蘇生に関わっていきました。手術室のスタッフは、新しい蘇生法に少しずつ慣れていき、さらにUNICEFからインファントウォーマーが贈られたことが蘇生率を上げたと思います。2016年くらいに病棟では新生児が1週間に一人くらい亡くなっているのに気がつき、新生児の学びをしつつ、クベースの温度管理、赤ちゃんの経過表作成などをしました。また産婦さんの付き添いさんをするということもしました。

日本から見れば、不十分なことばかりでしょうが、少ない医療者で多くの患者さんに果敢に対応していると思います。社会の発展につれ、改善していくのを期待したいと思います。

看護学生が臍帯から注射している様子(昨年11月、ジョイランクーラ・クリスチャン・ホスピタルで)

「判断を誤らないよう目を覚ましていたい」

バングラデシュ医療宣教師
近藤　恵

みなさまお元気ですか？私はビザが来ないまま日本で酷暑に突入しました。スマホを見ると、ジョイランクーラの方が気温が低い時があります。同じくらいであったとしても、風が吹き、木の多いジョイランクーラの方が楽かもしれません。6月初めの情報では、ビザのための書類はまだマイメンシンにとどまっていて、ダッカにまで達していないということでした。この分では、まだまだ時間がかかりそうです。

連日ロシアのウクライナ侵攻のニュースが流れ、解決の道が見えていません。友達とランチを食べながら、電車の中での犯罪が増えていること、日本に、そして世界に悪が恐ろしい勢いで勢力を増していることを話しました。

先日、奥多摩福音の家のWEBセミナーに参加しました。講師は、東京基督教大学学長の山口陽一先生、テーマは「キリスト教と戦争・民族主義」でした。その中で黒崎幸吉と言う方のことを教えていただきました。内村鑑三の助手も務めた方で、たくさんのキリスト教に関する著作があります。この黒崎が太平洋戦争の中、真珠湾攻撃の前に、「日本の連戦連勝は神が日本を用いて英米の罪を審き給うのであるかもしれないと感じた」（黒崎幸吉「恩寵の回顧」）というのです。しかし、かなり早い時期に黒崎は、自分の判断が誤りであったことを認めています。このことは、かなりショックなことでした。それは敬虔なキリスト者であり、知識人であるこの方でさえ、このような判断の誤りをしてしまうということに対してです。

【近藤恵医療宣教師を支える会】
〒329-0403 栃木県下野市医大前3-7-1
☎0285-44-7564 自治医大前キリスト教会気付
e-mail:meg0_02007@yahoo.co.jp
【現地】 Garo Baptist Convention
Christian Health Project
Joyramkura.p.o. Haluaghat 2260
Mymensingh, BANGLADESH

黒崎というほどの方が判断のあやまりをするならば、私たちはどんなに気を付けていなければならないでしょう。山口先生は、「戦争が起こったら、もう止められない。でも、起こる前には止められる。今は止められる時です。」とおっしゃっていました。日本でもウクライナへのロシアの侵略を見て、軍事費の増額、憲法の改正をしようという動きが一気に早まっています。私たちも目覚めていなければならないと思いました。

あなたが右に行くにも左に行くにも、うしろから「これが道だ。これに歩め」と言うことばを、あなたの耳は聞く。（イザヤ書３０：２１）

酷暑の中、友人とハイキングを楽しむ近藤恵医療宣教師。涼を演出してくれたアジサイがきれいだった（6/24 神奈川県藤沢市湘南台で）

【祈りの課題】
- **バングラデシュへのビザが早く与えられるように。**
- **大きな責任を持つドクター・ルーシーが強められるように。**
- **脳出血の後遺症のあるドクター・タポシュが癒やされるように。**
- **日本にいる間、必要な準備ができるように。**
- **母と姉の救いのために。**

「ZOOM in Mission2-JOMA50周年記念行事」に参加して

JOMA（海外宣教連絡協力会）は1971年7月2日、10の加盟団体（現在は19加盟団体）によって生まれた海外宣教協力機関で、昨年より「JOMA50周年記念行事」として集会を開催してきました。しかしコロナ禍の中にあって対面での集会はかなわず、ZOOMを利用しての集会を開催してきました。

今回私たちは「ZOOM in Mission 2（以下ZiM2）」という集会に参加しました。「2」ということは「1」もあった訳ですが、「1」が「過去を知り、過去を学ぶ」をテーマに昨秋に、「2」は若い人たちを中心としたチームが準備し、「宣教会の今とこれから」をテーマに５月６、７日に開催されました。

6日の夜のプログラムは「プレイヤーウォーク」。各地に遣わされている宣教師たちが撮った街の風景の動画やスライドを宣教師の説明を交え、見ながら祈るというものでした。人々の生活がそのまま見え、まるで現地に瞬間移動して「世界宣教の今」を体験したようでした。

7日の午後は大嶋重徳牧師から「世界宣教のこれから」をテーマにみことばの説き明かしから大いに励ましをいただき、夜はブレイクアウトルームに分かれて、各宣教団体を訪問する時間がありました。LMJも近藤医療宣教師、笹川宣教師にあらかじめ作成していただいたパワーポイントをお見せして、働きを紹介しました。小規模の集まりではありましたが、種まきの働きは確かになされました。

ZiM2には世界宣教を志す若い人たちも多く集っていましたが、LMJに限らず、主の召しに応答して福音を携えて世界に羽ばたく人々が多く起こされる事を願ってやみません。（**田辺証夫・LMI世界宣教会理事長**）

笹川宣教師の在ニューヨーク宣教活動を紹介する発表資料の一部

理事会便り

★毎月第一金曜日行われている「LMJ祈禱会」に是非ご参加ください！お問い合わせは事務局まで。

★近藤恵医療宣教師のビザ取得のために。日本での滞在期間が再渡航の備えとして有益なものとなりますように。またドクター・タポシュの健康の回復、責任を担っておられるドクター・ルーシーの働き、働き人の必要、病院の経営のためにも続けてお祈りください。同刻の祈りにもご参加ください。

★笹川雅弘・由利子宣教師夫妻の働きのために。円安、インフレが続く中、必要が続けて満たされるように。すべての働きが救いのために用いられますように。体力などの必要も備えられます様に。たんぽぽミニストリーの祝福のため、人的・経済的な必要のためにも続けてお祈りください。

★宣教師を送り出すそれぞれの支える会、また理事会の働きが、宣教師を正しくサポートするために用いられますように。宣教師志願者が起こされた時の十分な備えも。

★JOMAなどの他団体との働きが祝福されますように。

★世界宣教への思いがある方、ご連絡ください。ともに祈りましょう。

【祈り】「こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。」主を恐れる各宣教師の働きを聖霊が励まし祝福してください。（**田辺証夫**）

LMI世界宣教会

（LMJ 本部＆会計事務局）　〒226-0003 横浜市緑区鴨居2-29-4(かもい聖書教会気付　☎&Fax 045-931-3312）
e-mail: LMJ@outlook.jp
→ **献金送金の際、「ゆうちょ銀行通帳」から電信振替(ATM)をご利用されると振替用紙より割安で送金できます。**
(LMI)http://www.liebezell.org/(ドイツ語),www.liebenzell.ca/(英語)　**郵便振替 00110-1-91993「LMI世界宣教会」**
[常任理事]田辺証夫(理事長 lmijapan.tanabe@gmail.com) 熊久保公義(副理事長&書記) 村上正道(会計) アンドレアス・グロース(LMI担当) 小倉 泉(Bg) 立石聖美　**[協力理事]**木島正敏 兵藤陽子 立石尚志 小堀日出春(Voice編集)
[監　事]近藤泉 櫛田信　**[会計事務]**安藤眞里 佐藤かおり